

○（仮称）第1中央生涯活動センター基本設計ワークショップでの意見及びこれに関する市の検討状況

令和3年11月27日（土）に市民ホールにて開催された同ワークショップにおける意見（総数75件）とこれに関する市の検討状況は、次のとおりです。

カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
おしゃべり・遊び・休憩	Aグループ	1	熊谷市出身の企業家から絵本の寄贈をいただいている。絵本コーナーを設置してほしい。	キッズスペースに図書コーナーを設置する予定です。絵本などを寄贈いただいた場合は、それらを配架することを検討してまいります。
		2	交流スペースにカフェ（ティーサロンやスターバックスCAFEの導入）等の訪れるきっかけになるものが必要では。	カフェの導入については、（仮称）第1中央生涯活動センター基本構想・基本計画（以下「基本構想等」という。）でも検討しましたが、採算性やスペースの関係で、有人店舗の導入は見送りました。その代わりに、自動販売機により軽食や飲料を販売する予定です。
		3	イオンにある子育て支援コーナーの内装がワクワクする内装になっているので、参考にしてほしい。	優れた先行事例は参考にしております。
		4	テラスは清涼感を感じられるように緑のオアシスにしてほしい。遊歩道は子供に配慮してウッドチップなど柔らかくて自然を感じられるものが良い。	周辺環境にも配慮しつつ、自然と調和した親しみやすい空間の創出に向け、引き続き検討してまいります。
	Bグループ	5	ラウンジや交流スペースでうちわ祭りの準備ができる。	少人数での打合せや簡単な作業については、ラウンジや交流スペースで行っていただけます。ただし、大人数での打合せや大掛かりな作業については、部屋を借りていただくことを想定しています。
		6	1階の交流スペースが広くキッズスペースもあるため色々な世代が集まれて良い。市の中でも地域で活動に違いがあるため、様々な地域の市民が集まる場になればお互い活動を知ることができる。高齢者だけでなく高校生や若い世代が利用できる場になってほしい。	市といたしましても、正に御意見にあるような場になってほしいと考えています。
		7	カラオケは脳障害のリハビリに良い。防音を考慮したカラオケができる部屋も欲しい。	本件施設は鉄筋コンクリート造（RC造）による整備を見込んでいます。RC造は元々遮音性能が高いとされていますが、これに吸音材を組み合わせるなどして更に防音性能を高めることも可能です。多目的室など一部の諸室は、防音仕様とする予定です。
		8	大宮、浦和、本庄の交流センターを参考に交流の場をつくってほしい。	優れた先行事例は参考にしています。御指摘の「本庄の交流センター」は、「はにぼんプラザ」のことかと思いますが、同市の「アスピアこだま」なども含め、参考にしています。
		9	屋上緑化は気持ちがよさそうで良い。	アスファルトの駐車場や道路に囲まれた施設のオアシス的なスペースにできればと考えています。
		10	簡単な打ち合わせや話し合いは個室よりオープンなラウンジのほうがやりやすい。	簡単な打ち合わせや話し合いにはラウンジや交流スペースを使っていただく一方で、プライバシーに配慮すべき相談には個室（相談室）を使用するというように、目的に応じて使い分けがなされることを想定しています。
		11	おしゃべりができる交流の場と静かな落ち着いた場所の区別が必要。ゾーニング計画をしてほしい。	1階の交流スペースはにぎやかでおしゃべりができる場所、2・3階の学習・コワーキングスペースやラウンジは静かな落ち着いた場所といった大まかなゾーニングは想定していますが、多目的室や会議室などの諸室は使用目的によっても異なるので、厳密なものではありません。ただし、必要性が高い場所には防音・防振仕様を導入するなど、快適な施設となるように引き続き検討してまいります。

カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
展示・サークル活動	Aグループ	12	工作美術室、和室は不要(箱田高齢者・児童ふれあいセンターの工作室は利用頻度が低い)。工作室は多目的室にしてもよい！作業台が邪魔にならないよう、多目的に利用できる設えが良い。名称はアート室がいいのでは。	工作美術室については賛否両論あるようですが、隣接市の施設を利用している市民がいるという状況は、一定の必要性を示すものです。また、「隣接市の施設を利用」という実態は、公共施設の相互利用の一場面と考えることも可能ですが、そうであれば隣接市の市民が熊谷に来たくなるような施設・機能を、本市もまた用意すべきであるとの考え方も成り立ちます。以上から、他市町では（あまり）例が無いような機能を有する「工作美術室」の整備という選択肢も十分に合理的です。特に、若い世代にもアピールできるような機能を導入したいところです。具体的な仕様や名称については、引き続き検討してまいります。
		13	【反対意見】刻字や陶芸を行う際には、隣市の工作室を熊谷市民が使用していたりするため、熊谷にも工作美術室自体は必要では。	和室については、整理No.23・24・25・29・30を参照してください。
		14	使用料金を無料化してほしい。	使用料・利用料金は、原則として徴収します。減免措置をどの程度適用すべきかは今後検討してまいります。類似の既存施設（【くまびあ】など）の運営方法や、熊谷市公民館運営審議会の令和2年2月21日答申「公民館における受益者負担について」なども参考に、施設を利用しない市民の立場にも配慮した適切な受益者負担の在り方を定めてまいります。
		15	1Fに展示コーナーがあるが、階段の片隅ではなく、もっと目につきやすい配置としてほしい、または、専用の展示室を作ってほしい。(書、絵等の展示会用)	1階の展示コーナーについては、交流スペースと一体で、より多くの展示スペースを設けられるように引き続き検討してまいります。専用の展示室を設けることは予定していませんが、多目的室A（大会議室）は、展示会場としても利用できます。市内の専用の展示室としては、妻沼展示館もありますので、そちらの利用も御検討ください。
		16	交流スペースも展示会で利用できるような可動展示パネル等の設えもほしい。	1階の展示コーナーについては、交流スペースと一体で、より多くの展示スペースを設けられるように引き続き検討してまいります。
		17	展示会の会場は大会議室程度のスペースが必要。	多目的室A（大会議室）は、展示会場としても利用できます。基本構想等では、市民ホールの大ホール259m <sup>2</sup> を上回る289m <sup>2</sup> を想定しています。
		18	熊谷市の歴史文化等の情報検索ができる情報コーナーができると良い。	交流コーナー等にインターネットが使えるパソコンを設置する予定です。熊谷の歴史・文化等の展示・情報発信については、文化センター、妻沼展示館、江南文化財センターなどが中心となって取り組んでいるところです。
		19	展示またはサークル活動ができるホールが欲しい。	多目的室A（大会議室）は、展示会場としても、サークル活動の場所としても利用できます。
		20	大会議室の前後に大型スクリーン2、3台設けてほしい。	プロジェクトは部屋に設置（固定）されたものではなく、備品として用意する予定です。専用のスクリーンは設置せず、壁面に直接映写する方式を想定しています。後方の席のために別途スクリーンが必要か否か等の詳細については、引き続き検討してまいります。
		21	オフィスは2、3階でよいのでは、1階は交流・展示の場。	オフィススペースは、NPO法人などの団体の事務所としての利用を想定していますが、1階の交流スペースや生涯活動支援スペースは、これらの団体の主な活動場所でもあるため、同じ階層に配置しました。1階は、交流・展示の場であるだけでなく、生涯活動支援の場でもあります。また、建物南西隅のスペースを有効利用する意図もあります。

カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
展示・サークル活動	Aグループ	22	エレベーターは利用人数・高齢者、展示会利用者、作品運搬に利用することに配慮してほしい。	御意見も参考に、エレベーターのカゴは大きめのものにする方向で検討しています。救急車のストレッチャー（およそ全長200cm）が、収まる奥行きと相応の幅・間口を有することを目安とします。このサイズであれば、車いす利用者のニーズや大型の道具を持ち込むニーズにも対応できるものと考えます。
		23	和室はいらない。（稼働率38%、着物の着る機会減少、着物の買い取り業者の繁盛、高齢者はヒザが痛い）	和室については、稼働率が低めであること、足腰の弱った方には椅子の方が具合が良いことなどを考慮し、集約前は計4室（市民ホール「2の和室」・「3の和室」、障害福祉会館「第一和室」・「第二和室」）であったものを1室にまで減らし、更に床の間なども付いた本格的な和室ではなく、畳敷きの多目的室という位置付けにして用途を広げました。他の諸室に比べて稼働率が低めであるとはいえ、上記4室合計で年間10,400人の利用（平成30年度実績）があり、自彊術や民踊などの活動には畳敷きが都合が良いことなどを考慮すると、「畳敷きの部屋」を全く無くしてしまうこともためられます。 また、畳の上であっても、籐椅子などの備品を用いることで、膝や腰に負担を掛けない方法で利用することも可能です。和室が必要という意見（整理No.24）があることも踏まえ、1室は畳敷きの部屋を設ける方向で、引き続き検討してまいります。
		24	和室には、茶道の際に形だけでも和室と言えるよう床の間がほしい。	熊谷東公民館には、茶室としても使える和室があります。床の間も付いていますので、茶道サークルの活動場所としては、熊谷東公民館の和室という選択肢もあります。整理No.46や74の御意見にもあるように、既存施設（熊谷東公民館など）の活用という視点も大切であると考えています。
		25	（補足）書道は和室じゃなくてもできる、書き初めはテレビで見ると体育館でやっている、工夫して多目的スペースを使うべき。	御意見も参考に、書道サークルの活動場所としては、和室は想定しないこととします。多目的室や小会議室など、活動規模に応じて工夫して使っていただければと考えます。
	Bグループ	26	現状の部屋の稼働率を加味して施設の活動をシミュレーションし、計画しているボリュームの中で現状と同じような活動ができるかを示してほしい。	シミュレーションといえるほどの精度での予測は困難であるかもしれませんが、諸室の稼働率に限らず、施設の利用者数、駐車場の利用台数などの予測・試算を考慮しながら、新施設の設計、運営方法などを決定してまいります。
		27	熊谷はラグビーが有名でスポーツ施設の整備は進んでいるが、文化活動の場や展示施設が少ない。近隣の八木橋の市民ギャラリーがなくなってしまうため、大きい展示室がほしい。	多目的室A（大会議室）は、展示会場としても利用できます。基本構想等では、市民ホールの大ホール259m <sup>2</sup> を上回る289m <sup>2</sup> の面積を想定しています。
		28	図書館のような資料スペースがあると良い。立正大学の分館として資料コーナーを設けてはどうか。	図書館のような資料スペースを設けたり、大学図書館の分館機能を導入したりするには、資料の保管場所として大きな面積が必要になり、施設規模を考えると現実的ではありません。基本構想等でも、原則として図書館機能は想定していません。なお、キッズコーナーには、若干の児童書を配架する予定です。
		29	書道は椅子に座ってすることが多い。畳の部屋は車いすで上がれない。高齢者は足腰が弱く正座することが少ないため畳の部屋はなくても良い。	御意見も参考に、書道サークルの活動場所としては、和室は想定しないこととします。多目的室や小会議室などを、活動規模に応じて工夫して使っていただければと考えます。和室（畳敷きの部屋）の可否については、整理No.23を参照してください。

カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
快適性・機能性	Aグループ	30	和室（多目的室）に畳は不要、持ち運べるマット程度の対応でよい。	和室（畳敷きの部屋）の要否については、整理No.23を参照してください。畳敷きではない多目的室Bなどを利用する際は、必要に応じ、足元にマットを敷くなどの工夫をしていただければと思います。
		31	相談員を常駐してほしい。	現在は障害福祉会館にある「熊谷市障害者相談支援センター」を新施設内へ移転させることにより、引き続き障害者に係る様々な相談に対応する予定ですので、障害者相談に関しては相談員が常駐することとなります。 障害者相談以外の相談との関係では、プライバシー保護に配慮された安心できる相談場所としての活用（業務用としての貸相談室）という観点で考えています。
		32	トイレのスペースは非常に重要。在宅ライフ倶楽部さんからの提案を参考にユニバーサルトイレの設置検討、視覚障害者用の適正規模のトイレ、点字対応、音声対応を考えてほしい。	ユニバーサルトイレ（多目的トイレ）には、ユニバーサルシート（大人用ベッド）を設置するなど、障がい者にとっても介助者にとっても使いやすいように配慮します。視覚障がい者用の音声案内などの導入についても選択肢と考えますが、最終的な導入の可否については、今後決定してまいります。
		33	WC広くし、多目的WCを別で設けるのではなく全ての個室をユニバーサルトイレ対応してほしい。	敷地や床に余裕のある大規模な施設であれば、多数のユニバーサルトイレを並べる方法も考えられますし、逆に小規模な施設であれば、男女別や多目的のトイレをそれぞれ整備する代わりにユニバーサルトイレを1~2つ程度整備することも考えられますが、本施設のように中程度の規模で整備用地（延床面積）にも余裕がないケースで全てをユニバーサルトイレにすると、必要数を設置できないか、極端な場合は多目的室や会議室をつぶしてトイレを置くかといったような選択を迫られることになってしまいます。 しかし一方で、ユニバーサルデザインやジェンダーフリーの考え方も一層普及しつつありますので、従来型の利用方法と新しい利用方法との折り合いをどの辺りで付けることができるのか、更に検討したいと考えています。具体的には、ユニバーサルトイレを複数並べる形のデザインを比較検討案（選択肢の1つ）として、基本設計図書に盛り込むことができないか、検討を進めてまいります。
		34	工作室は工具器具が鉄工木工などがあり、製作の作品により異なる、多種多様対応できない、稼働率も期待できないのでは。	工作美術室については賛否両論あるようですが、限られた予算とスペースでありとあらゆる「工作」や「美術」に対応することは、現実的には不可能です。必然的に仕様や機能を絞り込むこととなりますが、整理No.12・13の回答にもあるように、若い世代にもアピールできるような機能を有する「工作美術室」を整備したいと考えています。具体的な仕様については、引き続き検討してまいります。
		35	相談室は5室も必要ないのでは、オフィス側の相談室2室は必要に応じてオフィスにも転用可能な設えとするのはどうか。	相談室とオフィススペースは、一定の範囲内で相互に転用可能なものと考えています。供用開始後の利用状況を見て、必要があれば転用を検討します。
		36	交流スペースにPC設置すれば、パソコン教室も可能となる。	交流スペース等にインターネットが使えるパソコンを設置する予定です。パソコン教室を開催する場合は、いずれかの学習・ワーキングスペースを貸切りとし、パソコン等の機器を主催者又は参加者が持ち込む形での開催を想定しています。
		37	カーボンニュートラルなど環境に考慮して木製家具にしてほしい、ただ座面などは柔らかいクッション性のものが良い。	交流スペースやキッズスペースなどの内装部分や備品の一部については、木質化したり、木製品を購入したりすることも選択肢です。その場合は、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林環境譲与税を活用できる可能性があります。環境面（持続可能性）と快適性の両方を考慮に入れて検討してまいります。

カテゴリー	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
快適性・機能性	Aグループ	38	医務室の設置は不要（有事の際には介護者、救急車で対応）、AEDを設置するほうが重要。	他の多くの市有施設と同様に、AEDを設置することを想定しています。
		39	EV、電動車いす1台＋介護者1人乗れるよう広いものにしてほしい。	御意見も参考に、エレベーターのカゴは大きめのものにする方向で検討しています。救急車のストレッチャー（およそ全長200cm）が、収まる奥行きと相応の幅・間口を有することを目安とします。このサイズであれば、車いす利用者のニーズや大型の道具を持ち込むニーズにも対応できるものと考えます。
		40	テラス、デッキ張りの隙間は車いすの車輪が挟まらない様に配慮してほしい。	テラスやデッキの境目や隙間については、車いす利用者の安全性や快適性に配慮した設計・施工に努めてまいります。
		41	入口で人を感知して音声案内ができるようなシステムを導入してほしい。ex.「事務所は右側です、つき当たって右側にトイレがあります」	視覚障がい者用の音声案内などの導入についても選択肢と考えますが、最終的な導入の可否については、今後決定してまいります。
		42	床材はクッション性のあるものだと車いすは進みずらいため、硬いほうがよい。	キッズスペースなど特殊なスペースを除き、車いすでの快適な移動にも資するような床材を選定したいと考えます。
		43	多目的室、交流スペースに、大型スクリーンがあるとよい。（ラグビー観戦）	交流スペースへのスクリーン設置は想定していませんが、多目的室A（大会議室）については、壁面をスクリーンとしても利用できる仕様とすることを検討しています。
		44	各会議室専用のWiFiマイクとプロジェクターがほしい。	会議室専用の機器を設置することも1つの方法ではありますが、管理運営の便宜やコスト面から、ポータブルタイプの備品による対応も有効な選択肢であると考えます。
		45	会館設定の目的・理念・コンセプトがあって然るべき。	ワークショップの中では時間の関係もあって簡潔な説明しかできませんでしたが、施設の設置目的や基本理念については、基本構想等に詳しく記載しています。基本構想等の概要版はワークショップでも配付しましたし、その本編は市ホームページ等で閲覧できますので、一度お目通しいただけるとありがたく存じます。
		46	施設に不足している機能などは、他市や他施設と連携をして補完し合いながら不便が無いように運営してほしい。（ほかの施設との関連・連携、生涯学習との関係、熊谷市役所他組織との関連調整）	他市町との連携については、現在深谷市及び寄居町と締結している公共施設の相互利用協定を、例えば行田市との間でも締結することなどが考えられますが、相互利用協定のような広域連携には、財政負担の問題（負担は公平になされているか）や距離の問題（施設まで遠すぎる）もありますので、連携拡大・推進の選択肢とともに、連携縮小・解消の選択肢も常に保持すべきであると考えます。 市有の他施設との連携については、積極的に進めてまいります。特に、熊谷東公民館や箱田高齢者・児童ふれあいセンターなど、近隣施設との一体的・相互補完的な利活用・運営を検討してまいります。
		47	交流スペースの展示は現中央公民館くらいはほしい、交流スペースは電子掲示板が良い。（みやすい）	展示コーナーを含む交流スペースは、現中央公民館（市民ホール）よりも広がります。本日のイベント案内などは、電子掲示板によることを想定しています。
		48	交流スペースに展示用のショーケースがほしい。	展示コーナーを含む交流スペースには、展示ケースを設置する予定です。
49	学習ワーキング、自習スペースはスマホやゲームのたまり場になる。	若い世代を呼び込むためには、（悪い意味ばかりではなく）何らかの「たまり場」になることも、一定程度は許容すべきではないでしょうか。学習・ワーキングスペース（グループ用）やラウンジなどの場において、常識の範囲内でたむろしてもらえればと考えています。		

カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
快適性・機能性	Bグループ	50	現状の施設は70代80代の利用者が多いがエレベーターがなく不便。車いすの利用者もいるのでエレベーターの設置は必須。	エレベーターは設置します。カゴも大きめのものにしたいと考えています。
		51	避難所として使用することも考えるべき。現在は敷地周辺の家庭は西小学校まで避難する必要があり不便。洪水などの災害が発生した時も避難所として利用できるが良い。車いす利用者に対しても避難しやすい計画にしてほしい。	新施設を避難所と位置付けるか否かについては、未定です。ただし、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した最新の市有施設となりますので、避難所としても使いやすい施設となるように、設計・整備を進めてまいります。
		52	調理室がない。部屋としてはなくても、キッチンを設置して避難時に食事を提供したり、子ども食堂として使ったりすることも考えてはどうか。	新施設には調理室を整備しない予定ですが、近隣の熊谷東公民館には調理室があります。調理室は他の諸室よりも稼働率が低いことから、その新規整備（更新）を見送るものですが、既存の調理室を有効活用していただきたいと考えています。新施設と既存施設とで役割分担を図ってまいります。 また、交流スペース内に小さなキッチンスペースを設けることは可能かもしれませんが、避難時に食事を提供したり、子ども食堂として使用したりすることは難しいでしょう。
		53	狭いオフィスは荷物置き場になってしまう。せめて12㎡はほしい。	オフィススペースを倉庫や荷物置き場として使用することは禁止します。オフィススペースは、事務所として最低限の広さのみを確保し、業務上の必要に応じてラウンジ（打合せなど）や生涯活動支援スペース（作業など）を活用していただければと考えています。
		54	部屋の使い方を整理し、予約するサイトを統一するなど、施設予約の方法も考えてほしい。	利用者相互の公平性を確保し、施設の有効利用を促進するため、予約の方法、受付開始時期、使用料の設定など、工夫をしております。市ホームページからアクセスできる公共施設予約システムの一層の活用も考えています。詳細については、今後決定してまいります。
		55	市民活動センターは地域性がなく、公民館が使えない人が訪れることが多い。地元企業と共同活動ができる場があると良い。	新施設は商工会館の機能も一部引き継ぎますので、地元企業との共同活動にも使用していただけます。「異分野・多世代で交流できる生涯活動の拠点」という新施設の基本理念を実現するため、様々な共同活動を御提案いただきたく存じます。
		56	明るくて使いやすい場所が良い。	そのような場所とできるように努めてまいります。
		57	「会議室」のように使い方を限定した名称ではなく、「ルーム1」「ルーム2」のような自由な使い方ができる名称にしてほしい。	最も部屋数の多い小会議室については、便宜上「会議室」と分類していますが、実際には小規模な多目的室ともいえます。集約対象となっている各既存施設においても、おおむね同様の呼称・運用です。諸室の名称については、引き続き検討してまいります。
		58	相談室は個人情報もれないように遮音性や広さを考慮してほしい。	防音（遮音・吸音）仕様によるプライバシー保護を重視するとともに、車いす利用者でも不便を感じない広さの個室も用意したいと考えています。安心して相談ができる環境の整備に努めてまいります。

カテゴリー	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
快適性・機能性	Bグループ	59	現状の施設のロッカーは小さすぎる。物を置けるように大きいロッカーや荷物置き場がほしい。	<p>ロッカーは、原則として備品対応になりますので、基本設計段階では大まかな設置場所を想定しておくこととなります。どのくらいの大きさのロッカーが必要であるか、所管課を通じて具体的にお知らせください。ただし、新施設では、大きな道具・荷物は施設内に保管するのではなく、原則として、活動や利用の都度持ち込んでいただくことを想定しています。そのため、エレベーターもカゴが大きめの仕様（救急車のストレッチャー（およそ全長200cm）が収まる奥行きと相応の幅・間口を有することを目安）とする方向で検討しています。そのため、大きいロッカー等の御要望には応じることができない可能性もありますので、あらかじめ御承知おきください。</p> <p>なお、設置する場合でもロッカーは有料となります。また、民間のレンタル倉庫やトランクルーム業者の経営を圧迫することがないような水準の使用料を設定することとなります。</p>
		60	4階建てでも良いのでは。3階建てではボリュームが小さい。部屋を増やしてほしい。	<p>基本構想等では、熊谷市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）の数値目標も考慮して、新施設（3階建て）の延床面積を2,400m<sup>2</sup>（1階層当たり800m<sup>2</sup>）と想定しました。仮に3階建てを4階建てに変更する場合でも、人口減少や財政規模縮小を考慮した長期的な視点から、延床面積（の増加が反映される整備コストや維持管理運営コストの増大）は、抑制しなければなりません。そのため、延床面積2,400m<sup>2</sup>を増やすことなく4階建てに変更する場合を考えると、800m<sup>2</sup>/階×3階を600m<sup>2</sup>/階×4階に変更するような形となり、廊下・階段などの共用部分の割合の高い、使いづらい施設になってしまう可能性が高くなります。</p> <p>ワークショップで提示した基本設計案における延床面積は約2,900m<sup>2</sup>であり、太陽光パネルの設置や断熱素材の使用などによるエネルギーコストの削減や、適切な使用料の設定による収支改善等を見込んで面積を増やしています。また、約2,900m<sup>2</sup>という面積は、基本構想等の1階層当たり800m<sup>2</sup>を基準にすれば約3.6階分であり、実質的には4階建てに匹敵する面積を有しているともいえます。</p> <p>市役所西側駐車場の一部を整備用地とするという制約条件の下、できるだけ広く、使いやすい施設となるように、工夫・検討を重ねていますので、形式的に3階建てであるか、4階建てであるかにこだわることなく、トータルで判断していただければと考えています。</p>
		61	障害者用の駐車スペースは2台程度ほしい。	御意見を参考に、新施設の出入口に最も近い所に、2台分の障がい者用駐車スペースを確保するように、基本設計案の修正を検討しています。
		62	くまびあの利用者は車や自転車で訪れる人が多い。今回の敷地は駅から比較的近く学生が利用しやすいので良い。	市では毎年、歩行者・自転車通行量調査を実施していますが、新施設が駅近の立地を生かし、徒歩での利用が多くなることも見込んでいます。歩行者の行き来が「まち」のにぎわいにつながることも期待しています。
		63	自販機コーナーは各階にほしい。	詳細は未定ですが、1階に軽食を含む自販機を数台、2階以上は飲料用のものを1～数台程度で暫定的に想定しています。自販機は増設が可能なので、利用状況もみながら調整したいと考えています。
		64	テラスは事故が起こる可能性もあり危ない。	テラスやバルコニーの安全対策は、十分に講じてまいります。

カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
快適性・機能性	Bグループ	65	事務室は奥行きがあるより間口を広くとってカウンターのようにすると良いのでは。	本庁舎の市民課や福祉部門の窓口であれば、来客数や手続に要する平均滞在時間を考慮して、間口を広く（窓口を多く）する必要がありますが、本件のような施設の窓口では、現在の設計程度でも十分ではないかと考えています。また、時間のかかりそうなお客様には、適宜、相談室やラウンジのテーブルで応対することも可能です。
		66	障害福祉会館は雨が降ると出入り口に雨水があふれてしまい困っている。車のことも考慮して雨水対策をしっかりとほしい。	出入口や交流テラスにおける雨水対策は、十分に講じてまいります。
まちのつながり	Aグループ	67	オフィススペース、NPOや起業を目指す者が事務所として使用する⇔公平性確保するために利用期間に上限を設定する、この2つの方針が矛盾している。	オフィススペースは、NPO団体や起業を目指す者が事務所として使用するためのスペースです。利用料を低額に抑えるのは、活動支援・起業支援の趣旨ですが、一方で、利用期間に上限を設けるのは、機会の公平性を確保するためです。具体的には、利用期間内に活動・業務を軌道に乗せ、別の場所で独立してほしい（事務所を構えてほしい）という意味であり、考え方自体が矛盾しているわけではありません。
		68	イベントなど掲示する。	紙媒体（ポスター）による掲示のほか、電子掲示板を利用した方法なども検討してまいります。
		69	行田市含め、協調利用を考える。（事務室受付担当から他施設へ連絡を取り、空きの確認、予約等までできるとよい）	「協調利用」というのは、いわゆる「公共施設の相互利用」の意味でしょうか。仮にそうであれば、本市は深谷市及び寄居町と相互利用協定を締結しているため、各市町の住民は、対象の施設については相互に、設置市町の住民と同様の使用料負担で利用することが可能です。また、今後の方向性として、例えば行田市との相互利用協定締結という選択肢も考えられますが、相互利用協定のような広域連携には、財政負担の問題（負担は公平になされているか）や距離の問題（施設まで遠すぎる）もありますので、連携拡大・推進の選択肢とともに、連携縮小・解消の選択肢も常に保持すべきであると考えます。 なお、施設予約の代行等については、施設予約システムの共同運用といった環境が既にあれば別ですが、そうでない場合はあまり有効な方法とは思われません。対象の市町（施設）に、直接予約を入れていただいた方が、むしろ手続がスムーズであると考えます。
	70	複数施設が集まっているからと言って、偶発的には交流は生まれない。施設を利用する方が一緒に参加するイベントや関わる機会等が初めて「交流」が生まれるものである。	御指摘のように、イベント（仕掛け）が重要であることは承知しております。特に、工作美術室（メイカースペース）や学習・コワーキングスペース（グループ用）の活用方法については、有用な提案・アドバイスなどがあれば、是非頂戴いたしたく存じます。	
	Bグループ	71	新たなコミュニティの形成や様々な交流活動ができるように敷地周辺の空き家や空き地を活用してはどうか。	敷地周辺の空き家や空き地の活用までも視野に入れた検討は、正に「まちづくり」や「まちの再生」までも見据えたものとなります。「まちづくり」レベルでの効果を発揮できるような「異分野・多世代で交流できる生涯活動の拠点」を整備してまいります。
72		まちなかの良さを生かしたランドマークになるような建物を建ててほしい。	「異分野・多世代で交流できる生涯活動の拠点」として、本市（中心市街地）のランドマーク（の1つ）となることを願っています。	



カテゴリ	グループ	整理 No.	意見	市の検討状況
まち との つながり	B グループ	73	関係人口や将来の市の人口の変動を考慮した計画をする必要がある。一部を受益者負担にするなど、部屋の使い方を考えるべき。	人口減少や財政規模縮小を考慮した長期的な視点から持続可能性を確保するべく、適切な受益者負担について検討してまいります。具体的には、「公民館における受益者負担について」（令和2年2月21日熊谷市公民館運営審議会答申）における考え方（使用料を100%免除ではなく、50%減額とする）や【くまびあ】など類似の施設の運営方法（減免しても原則50%まで）などを参考として、新施設の使用料を定めてまいります。
		74	複合しない公民館の活用方法もあわせて考えるべき。	新施設の運営に当たっては、将来的には集約対象であるものの当面は存続する周辺施設（熊谷東公民館や箱田高齢者・児童ふれあいセンターなど）との一体的な利活用・運営も考えています。例えば、熊谷東公民館には、茶室としても使える和室や調理室のように、新施設には無い諸室がありますので、これら諸室をはじめとする既存施設の有効活用を進める視点からも、新施設との役割分担を図ってまいります。
		75	生涯活動を通して様々な施設の使い方ができる。立正大学の福祉関係の学生と連携した活動もできるのでは。	立正大学の福祉関係の学生との連携もそうですが、大学以外の団体や福祉関係以外の分野との連携も考えられます。「異分野・多世代で交流できる生涯活動の拠点」という新施設の基本理念を実現するため、様々な施設の使い方を御提案いただきたく存じます。